「雨を活かすまちづくり50年の継承」
８市市長サミット

武蔵野市長　　邑上　守正
三 鷹 市 長　　清原　慶子
府 中 市 長　　野口　忠直
調 布 市 長　　長友　貴樹
小金井市長　　稲葉　孝彦
小 平 市 長　　小林　正則
国分寺市長　　星野　信夫
西東京市長　　坂口　光治

来賓　国土交通省都市・地域整備局
　　下水道部流域下水道計画調整官　　井上　茂治　氏
　　国立大学法人東京学芸大学長　　鷲山　恭彦　氏

と　き　　平成２０年１１月１５日（土）
　　１３：００～１３：４５
ところ　　東京学芸大学　芸術館ホール

雨を活かすまちづくり五十年の継承

八市市長サミット宣言

まちは一つ

まちを歩き、利用する人にとって、まちは一つである。

まちの連続で都市がなりたち、雨は行政の枠組にこだわらずまちに降ってくる。

雨は資源

雨は決して邪魔なものでない。まちの資源である。雨をかりる、雨をかえす、雨を活かすことで、乾きつつあるまちに安全と潤いを授けてくれる。

行政の連携

人の営みには、まちとまちを結ぶ行政の連携は必要である。

雨を活かすまちづくりも行政の連携が不可欠である。

より多くの連携と継承

雨を活かすまちづくりは、行政の連携だけではなりたたない。そこで暮らす人、学校にかよう人、地場産業を担う人々と一緒になって、雨を活かすまちづくりを考え、行動し、次世代のために五十年間継承することが重要である。

武蔵野市長　邑上守正
三鷹市長　清原慶子
府中市長　野口忠直
調布市長　長友貴樹
小金井市長　稲葉孝彦
小平市長　小林正則
国分寺市長　星野信夫
西東京市長　坂口光治

平成二十（二〇〇八）年十一月十五日

司　会（小澤京子）　皆様、大変お待たせをいたしました。ただ今より市制施行50周年記念事業「雨を活かすまちづくり５０年の継承」８市市長サミットを開催いたします。ご多忙にもかかわらずご来場いただき誠にありがとうございます。

雨は生命にとって大切なものですが、時には悪さをして人間を困らせています。都市に降った雨をじゃまものと考えず、雨をできるだけゆっくりと流してあげる。次世代に安全で潤いのある故郷を残すために皆さんと知恵を出し合い「雨をかりる、かえす、活かす」方法を探り50年間継承することをテーマといたしております。

それでは、壇上に８市市長と、ご来賓の方々にご多忙にもかかわらずご列席いただいております。どうぞ皆様、拍手をお願いいたします。

（拍　手）

司　会　皆様、ありがとうございます。

始まります前に、皆様にお願いがございます。本日は公開サミットとなっておりますが、質疑応答の時間を予定しておりません、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、皆様から向かって左手よりご紹介いたします。

座右の銘は「人に優しく己に厳しく」、邑上守正武蔵野市長です。

邑上武蔵野市長　どうもこんにちは。（拍手）

司　会　趣味は映画鑑賞や音楽鑑賞、清原慶子三鷹市長です。

清原三鷹市長　皆様こんにちは。（拍手）

司　会　趣味は日本の古典芸能一般、野口忠直府中市長です。

野口府中市長　よろしくお願いいたします。（拍手）

司　会　座右の銘は「煩悩即菩薩」、長友貴樹調布市長です。（拍手）

長友調布市長　よろしくお願いいたします。（拍手）

司　会　特技は大工仕事、趣味は料理や園芸、小林正則小平市長です。

小林小平市長　こんにちは。（拍手）

司　会　座右の銘は「共生、参加、創造」、星野信夫国分寺市長です。（拍手）

星野国分寺市長　こんにちは。（拍手）

司　会　座右の銘は「たゆまざる努力と大胆な挑戦」、坂口光治西東京市長です。

坂口西東京市長　どうも。（拍手）

司　会　そして、水と緑の小金井市、課題は100年のまちづくり、稲葉孝彦小金井市長です。

稲葉小金井市長　稲葉です。どうぞよろしくお願いいたします。

司　会　続きまして、ご来賓の方々をご紹介いたします。

国土交通省都市・地域整備局下水道部流域下水道計画調整官、井上茂治様です。（拍手）

司　会　国立大学法人東京学芸大学学長、鷲山恭彦様です。（拍手）

それでは、ご来賓の方々にご挨拶をいただきたいと思います。

最初に、井上茂治様、お願いいたします。

井上計画調整官　皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました国土交通省下水道部の井上でございます。

本日は、このように盛大にサミット並びにシンポジウムが開催されますことをお喜び申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、水は大きな循環をしています。この水循環というものは、どこかに支障を与えれば、必ずどこかにそのツケが返ってくるという仕組みになっており、雨水を活用していくという施策を進めるに当たっては、より広域的な、そしてより長期的な観点からの対応が求められると思っております。

国土交通省では、従来は雨を速やかに流すということを基本に各種施策を進めてきましたが、近年、ゲリラ豪雨等が頻発する中で、雨を貯める、また、雨を活かしていくという施策に重点をおいて進めているところでございます。

そのような中、このような形で各市さんが連携しながら雨を活かす取り組みを進められるということは、全国に先駆けた先導的な役割を果たすものとして期待しているところでございます。また、この取り組みにつきましては、人々の心を育む、また人と人とのつながりを深めていく施策でもあると思っております。

国土交通省といたしましては、このような施策が全国的にも大きく進みますよう積極的に支援していきたいと思っているところでございます。私たちの住むまちが本当に環境のいいまちになり、そして次世代に誇れるまちとして引き継がれていく、こういう目的に向けて、今回の取り組みが大きな発展の機会になることを祈念いたしまして、簡単ではございますけれども、国土交通省からのあいさつとさせていただきます。

司　会　井上様、ありがとうございました。

続きまして、鷲山恭彦様、お願いいたします。

鷲山学長　『雨を活かすまちづくり』というテーマで８市の市長の皆さんが集まられて「市長サミット」をされる、これは大変画期的なサミットだと思います。開催を喜びまして、心からお祝いを申し上げます。

午前中に、「We Love Tamagawa」と題しまして、第２回「多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム」が開かれまして、大変興味深いレポートがなされました。お昼ご飯も、江戸東京野菜を使った「黄金の昔野菜弁当」というのが出されまして、味も、込められた思いも、すばらしいオリジナル弁当でした。時と所を往還する循環型のこの発想は、午後の「雨を活かす」というこのサミットと深く響き合っていると思います。こうしたテーマでサミットが開かれる時代なのだなということに、大変深い感慨を覚えます。

私たちの世代は、小学校、中学校、高等学校の頃、ちょうど高度経済成長期に当たりまして、豊かになっていくということはいいのですが、反面、自然破壊がすさまじい勢いで進んでいた時代でした。私は農村に育ちましたから、川でよく遊びましたが、

深瀬あり浅瀬ありの中で、泳いだり、魚をとったり、岸辺にはサクラとかクヌギとかキリとかいろんな木や茂みがあって、花や樹液にはチョウやコガネムシ、カブトムシが集まっていました。

しかし、この川がどんどんつぶされていって、見事な岸辺の大木がどんどん切られていき、そしてコンクリートの味気ない堤防ができていく、それを目の当たりに見まして大変悲しい思いをした体験があります。

今、井上計画調整官がおっしゃいましたけれども、「水をさっと流す」という、これは便利・効率の川になってしまった。豊かな思い出の場が失われたという、そういう心の傷があるものですから、『雨を活かすまちづくり』などと聞きますと、本当に心が踊ります。

21世紀の最大の課題というのは、水問題だと言われております。日本は水に大変恵まれた国で、昔、世界の船乗りたちが、「横浜の水が一番おいしい」と、このように言ったそうです。横浜というのは日本の港の象徴として言っただけで、言いかえれば、「日本の水は世界一おいしい」ということだと思います。その水をせっせとなるべく早く海に流しこむ。これはやはり理不尽で愚かなことで、もったいないことだと思います。

東北の三陸海岸の話でしたか、「磯焼け」になって海の幸が少なくなってきたと…。「魚つき林」という言葉があって、森林の荒廃が海の荒廃につながっているのではないか。山からさっと出る水が海に入るものですから、海の漁場が荒れてきたのではないか。そう考えて山にいろんな木を植えた。そうすると、案の定、山に保水力が出て滋養に富んだ水になり、漁場に魚や海草が豊かに戻ってきた。こういう話を聞いたことがあります。昔の自然の循環をいかに復活させるか、そのことが私たちの生活を確実に豊かにしていく。そのことが今重要な課題になっているということがわかります。

ですから、「雨水浸透ますで地中に戻す」ということを小金井市が自発的にずっと取り組まれてこられて、それをさらに拡大していこうという話は、コンクリート文明を克服し、自然の循環を回復していくということで、私のようにコンクリートで護岸された川にトラウマがある者にとっては、極めて感慨深いお話です。

ドイツでは、道路にもコンクリートを一面に敷くのではなくて、格子状にして草も顔を出すようにし、水も全部土にかえす、そういうことをやっています。自然を現代において復権させていくというのは、いろいろ新しい工夫も必要だし、技術によって新しいことも可能になっていると思います。

今回、どのような方針が示され、どのような内実をもつか、サミットの宣言とシンポジウムを大変楽しみにしております。開催を心からお祝い申し上げます。（拍手）

司　会　鷲山様、ありがとうございました。

ご来賓の方々には客席にて見守っていただきたいと思います。井上様、鷲山様、温かいお言葉をいただきまして本当にありがとうございました。

本日の公開サミットは、同じテーマに向かって行政同士の連携を50年継承する証しとしてサミット共同宣言をし、皆様の前で署名を行うことです。

早速進めさせていただきます。皆様のお手元にございます「雨を活かすまちづくり５０年の継承」８市市長サミット宣言（案）を朗読させていただき、各市長のご署名がお済みになった時点で「案」の文字を外させていただきます。

まちは一つ

まちを歩き、利用する人にとって、まちは一つである。まちの連続で都市がなりたち、雨は行政の枠組にこだわらずまちに降ってくる。

雨は資源

雨は決して邪魔なものでない。まちの資源である。雨をかりる、雨をかえす、雨を活かすことで、乾きつつあるまちに安全と潤いを授けてくれる。

行政の連携

人の営みには、まちとまちを結ぶ行政の連携は必要である。雨を活かすまちづくりも行政の連携が不可欠である。

より多くの連携と継承

雨を活かすまちづくりは、行政の連携だけではなりたたない。そこで暮らす人、学校にかよう人、地場産業を担う人々と一緒になって、雨を活かすまちづくりを考え、行動し、次世代のために50年間継承することが重要である。

司　会　それでは、各市長の皆様、ご署名をお願いいたします。

（署　名）

司　会　ただいま各市長の皆様にはご署名をいただいております。少々お待ちくださいませ。

それでは、皆様よろしいでしょうか。皆様の前で滞りなくご署名が済みまして、８市市長サミット宣言を唱えることができました。

それでは、宣言後、各市長に現在の心境、あるいは今後のご決意などを短い時間ではございますが、３分間スピーチでお聞きしたいと思います。

なお、冒頭でお願いいたしましたが、皆様のご質問などのお時間は設けておりませんので、ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは最初に、邑上武蔵野市長より順にお願いいたします。邑上様、お願いいたします。

邑上武蔵野市長

皆さん、こんにちは。お隣の…お隣といっても、きょうは皆さんのお隣の市でございまして、小金井から見

ますと東側にあります武蔵野の市長の邑上でございます。

実は、私、小金井市生まれで、そして武蔵野市育ちでございますが、お隣としてこれからもぜひいろんなことを連携してやっていきたいと思っております。武蔵野市も、雨水をいかに下水にすぐに流さないかということを水害対策と環境面で取り組んでいる自治体でございます。特に環境面から申しますと、武蔵野市で降った雨は一体どこに行くのかということですが、地面に浸みこみ、それがやがて井の頭公園の池を満たすということがかつてあったようでございます。今はなかなかその流れがうまく循環していないということもありますので、是非、武蔵野市内で雨水を地中に浸みこませていきたいと思っております。

小金井市さんは雨水に対する取り組みを積極的に進めておられまして、何やら宅地におけます雨水浸透ます設置率が世界一だとお伺いしておりますけれども、私、小金井市さんには内緒で、武蔵野市でももっと埋めてしまおう、トレンチ、浸透ますをいっぱい設置しようということを秘かにやっております。今、実は市内の市立小中学校18校で500～600トン級の雨水浸透施設の設置を進めております。これが全て終わりますと、合計で１万トンクラスの貯留浸透施設になってしまうということで、いつの間にか小金井市を上回っているのではないか。これは小金井市にはちょっと内緒なんですけれども、追いつき追い越せで、是非こういう取り組みを小金井市さんを参考に進めていきたいと思っております。

雨水利用というのは、１つの自治体だけではなかなか難しい話でございますので、環境面、水害面を考えても、これからは小金井市さんを中心に雨水利用について大いに進めていけたらなと思っております。潤いある多摩地域をつくっていこう、そして緑の東京、美しい日本、青い地球を皆さんと一緒につくってまいりましょう。

本日はありがとうございます。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、清原三鷹市長、お願いいたします。

清原三鷹市長　皆様、こんにちは、三鷹市長の清原慶子です。きょうは「雨を活かすまちづくり５０年の継承」８市市長サミット宣言に私も参加できまして、大変幸せに思います。

３つのお話をさせていただきます。

１つ目は、雨、そして水と私たち人間とのかかわりの深さです。春雨、梅雨、そして時雨、にわか雨、またこの季節には、秋雨、さらには氷雨、小糠雨など、私たちは雨にまつわる言葉と文化を育ててきました。歌を見れば、「さんさ時雨」を初め民謡がありますし、♫雨々ふれふれ　もっとふれ♫という歌謡曲もありますし、子どものころは　♫あめあめ　ふれふれ　かあさんがじゃのめで　おむかえ　うれしいな♫　というように、私たちは雨を「天気が悪い」なんて思いません。暮らしの中で雨や水が、どんなに私たち人間の飲料水のみならず、作物を、花を育ててきたか。私たちの心を潤してきたか。だからこそ、雨や水は欠かせないものなのです。

２つ目、けれども、雨にちなむ言葉でも

雷雨や豪雨はいけません。平成17年９月４日から５日にかけて、三鷹市も未曽有の集中豪雨に見舞われ、200世帯を超す床上・床下浸水の被害が発生しました。私は市民の皆様にご協力をいただいて、雨水浸透施設を多く配備してきましたが、更に雨水貯留浸透施設を設置することによって、昭和48年（1973年）に全国で最初に公共下水道100％を達成した三鷹市としては、水を更に友とするように、豪雨や雷雨にも強い下水道づくりに努めてきました。

実は、ことしの６月に内閣府が「水の利用に関する調査」をしました。この調査によれば、再生水を使う意欲のある人は86％を超えていました。さらに、補助があれば雨水浸透施設をぜひ配備したいと答えた国民が76％を超えていました。そうであるならば、私たちは次なるステップに進まなければなりません。

３つ目です。きょうは小金井市長さんが、市制施行50年を記念して８市の市長を一堂に集めてくださいました。すごい求心力です。なぜなら、小金井市長さんを先頭に、小金井市の皆さんはこの関係ある市の先頭に立って雨水浸透施設を整備してくださり、私たちに水の文化の豊かさを本当に、本当に強く実現してくださった呼びかけ人だからこそ、これだけ勢ぞろいしました。つながりは大事です。市は、あるときは競い合いますが、あるときはつながり、そしてともに力を発揮します。この８市市長サミット宣言が雨を活かすまちづくり50年の継承のすばらしい出発になりますことを確信いたしまして、三鷹市長からのメッセージといたします。

皆様、どうぞ、ご一緒に、よろしくお願いいたします。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、野口府中市長、お願いいたします。

野口府中市長　府中市長の野口でございます。小金井市では本年、市制施行50周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。本日はその記念事業の一つとして近隣８市市長による市長サミットが開催され、このように大勢の皆様がご出席でお喜びを申し上げます。

小金井市と府中市は隣町ということもあり、昔から深いご縁がございます。例えば江戸時代、８代将軍徳川吉宗の時代でありますけれども、府中の押立村の名主で川崎平右衛門定孝という人がおりました。当時、享保の改革で新田開発が進みます。新田といっても畑でございますが、南北武蔵野で80数カ村に及んだということでございますけれども、しかしながら、享保17年（1732年）、元文３年（1738年）と続けて大飢饉が襲います。小金井より北の武蔵野の新田では大勢の餓死者が出たそうであります。これが将軍吉宗の耳に入り、側近の大岡越前守は代官に新田農民の救済を指示します。代官は府中の押立村の川崎平右衛門を訪れまして、相談の結果、平右衛門は私財をなげうち、翌日から小金井橋で救助米の配給、続いて救い金の支給も行われたという記録が残っております。

この川崎平右衛門は非常に傑出した人物でありまして、来年１月から府中の郷土の森博物館で特別展を開催いたす予定です

が、後に南北武蔵野新田世話役に抜擢をされまして、その根拠地を現小金井市関野町の関野新田に置きまして、さらに玉川上水の堤に桜を植えまして、後に小金井の桜と名声を博する名所を手がけた人物でもあります。この人は、その後、美濃の輪中地区の代官、また、世界遺産になりました石見銀山の代官から幕府の勘定吟味役にまで上り詰めた人であります。

このように昔から府中と小金井は深い縁に結ばれておりますが、小金井市が「雨を活かすまちづくり」としてその継承をこの市長サミットで宣言することは、極めて有意義なことだと存じております。府中市にも多摩川のほか府中崖線がございまして、昔は清水がたくさん湧いた水と緑のまちでありましたが、湧水が今ほとんど枯渇の状況であり、殊に清水が丘という地名があります地区は瀧神社の湧水が有名でありますけれども、今、湧水量は心細い状況に至りました。そこで、その上部一帯を水源涵養地として雨水浸透ますと浸透性舗装の重点地区として予算化をいたしまして、住民のご協力のもと、その施策を進めているところでございます。この地区以外でも、雨水浸透事業はその設置数は、平成20年10月現在、全部で約３万5,000基に及んでおります。小金井市には及びませんけれども、この事業の重要性は認識をしているところであります。

公共施設の雨水利用も、小学校で５カ所、図書館、美術館へも導入しており、主としてトイレなどに利用されております。これからも小金井市の先進的な施策を学び、本市でも雨を活かすまちづくりを進めてまいります。そして、豊かな水辺や緑の環境に恵まれた快適なまちの実現に向けて真剣に取り組んでまいりますことを申し添えまして、私のメッセージといたします。ありがとうございました。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、長友調布市長、お願いいたします。

長友調布市長　皆さん、こんにちは。調布市長の長友貴樹でございます。

小金井市、市制施行50周年、まことにおめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。

また、本日このように意義あるイベントを企画いただいたことに感謝を申し上げたいと思っておりますが、50年の過ぎし年を振り返りながら、これからの50年ということでございますから、３世代にも及ぶような、連綿と続くような努力をこの８市の中で今後とも提携、連携関係を強めていくということに、私ども調布市としても本当に心から賛同させていただくものでございます。

調布市から多少のメッセージを発信させていただくに当たり、雨水を含めた調布市の水環境について若干ご紹介をさせていただきたいと存じております。私どものまちにも、皆さんご存じのとおり野川が流れております。地図を見ていただきますと、野川の流域で私ども調布市にかかる部分が実は一番長く、全体の４分の１強を占めております。そして、その野川には国分寺崖線に雨水が蓄えられたわき水が流れ込んでおります。周辺では、例えば四季の風景の移

野川公園（調布市）

り変わりを楽しむ方々、また生き物を観察する人々、そしてのどかにただ散策を楽しんでおられる方、野川の周辺ではそのような市民の憩いの場面が多く見られる、そのようなスペースになってきているわけでございます。

加えて近年では、ご承知の方もおられるかもしれませんが、民間企業の多大な貢献を中核といたしまして、春に桜のライトアップという大変すばらしいイベントが開催されるようになってまいりまして、これは単なる春の風物詩にとどまらず、我が調布市、１年間を通じての本当に大きな行事になりつつあります。暗闇の中に見事なライトに照らされた満開の桜、一種幽玄の境地と申しますか、機会があれば来年以降ぜひ足を運んでいただければと思っております。

いずれにいたしましても、水に親しむ、水と触れ合う、このことが私どもの生活に色々な良き影響を与えていることは言うまでもございません。個人の五感を研ぎ澄ますような、そういう影響でございますとか、世代間を超えたコミュニケーションがこの水を中心に生まれてくる。申すまでもなく、古代から洋の東西を問わず、豊富な水のあるところに人々が集い、文化が生まれてくるわけでございますが、私ども調布市の中では佐須という地域をご紹介したいと思います。

その地名だけではなかなか耳なじみのない方もおられると思いますが、簡単に言うと、調布市全体のちょうど中央部にありまして、深大寺でございますとか神代植物公園の少し南側に位置する地域でございます。この佐須には、先ほど申し上げました野川への湧水を利用した用水がございまして、この水を利用して今でも稲作、田んぼが残っております。また、極めて希少な動植物の生存も確認されております。ありがたいことに私ども調布市は水道水の６割を今でも地下水によって賄うことができる。その周辺では、里山のいろいろな文化が色濃く残っている地域もあるということで、水が我が調布市に及ぼしている恩恵ははかり知れないものが現在もございます。

このサミットの宣言が50年の継承とあります。実は我が調布市も３年前に50年を迎えたばかりでございまして、約半世紀の歴史を有するわけでございます。今後の50年をこのようなすばらしい環境を守り育てていくという決意を、私ども単体の市としても強くしているところであります。

先ほど来雨水のことが出ておりますので、我が市も浸透ますについて触れさせていただきますと、平成４年から設置を始めました。その勢いを平成18年から呼びかけを強くさせていただいているところでざ

いまして、先ほどの野口市長の触れられた数と大体同じですが、現在３万4,000基（トレンチ１ｍを１基に換算）を数えるまでになっております。小金井市の先進的な成果を勉強させていただきながら、これからも永続的に取り組んでいきたいと思っております。

いずれにいたしましても、８市がここに集い、このような環境を守っていくということに関する連携を深める大変すばらしい意義のあるイベントを、今日、開催していただきました。私どもも皆様方とともにその道を歩ませていただきたい。そして、すべての自治体の全市民の皆様がそのことの実効を上げるためにご協力をいただくように心からお願いを申し上げまして、あいさつとさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、小林小平市長、お願いいたします。

小林小平市長　皆さん、こんにちは。小平市長の小林でございます。どうぞよろしくお願いします。

小平市もあと４年たちますと50周年になりますので、小金井市の50周年のさまざまな事業を参照、あるいは参考にさせていただければと思っております。小平市は小金井市と非常に縁が深いところがございまして、小平市の中に花小金井というところがあります。私が30年近く前に小平に越してきたときに、何で小金井という地名が小平の中にあるのだろう、不思議だなと思っていろいろ調べてみましたら、桜の名所であります小金井公園に桜を見に行く人たちが乗り降りする駅が花小金井駅という駅。これは小平市内にある駅ですけれども、要するに花がいっぱいある、いわば花に囲まれた駅ということで、小金井公園にちなんで名前がつけられた。それが縁で小平の東側の部分が花小金井という地名になっておりまして、そういう意味では非常に縁が深いということでございます。

近年、戸建て住宅の宅地開発やマンション建設等による宅地化が進み、畑や雑木林が年々減少し、貴重な都市の緑が失われております。また、このごろの雨は想像を遥かに超えたものとなり、私たちの周囲ではますます住みづらい環境となりつつあります。緑や緑地をふやすことによる雨水の地中への浸透により、地下水の涵養と災害対策の効果も期待できるものと考えます。

市内の土地は、そのほとんどが民有地であることから、今後、市民一人ひとりが行政と連携し、接道部分の生垣化や壁面の緑化など緑の創出や保存に取り組んでいく必要があると考えます。また、道路、公園及び学校等の公共施設につきましては、緑に関する特別プロジェクトチームを設置し、組織体制を強化し、計画性と統一性のある事業展開を図り、緑化の推進を一層拡充させ、環境にやさしいまちづくりを目指していきたいと考えております。

小平市の緑は、江戸時代から約350年の歴史のある玉川上水、野火止用水及び狭山・境緑道とそれに隣接する雑木林の緑が挙げられます。玉川上水は貴重な土木遺産として国の史跡に指定されており、小平市部分は約８キロメートルの区間を占め、多

くの樹木があり、また隣接して保存樹林が多く存在し、玉川上水と一帯となった緑地空間を形成いたしております。また、野火止用水は用水路と隣接する雑木林が東京都の歴史環境保全地域に指定され、貴重な自然環境が保全されております。さらに、これらをつなぐ全長21キロメートルの緑の回廊、小平グリーンロードは、春の桜を始め、四季折々の自然に親しめ、市民に潤いと安らぎを与えており、都心に近い緑豊かな散歩道として健康志向の人々を中心に親しまれ、日本の歩きたくなる道500選にも選ばれております。

緑の保存は多摩地区すべての共通課題であり、緑を残すためには、優良な自然樹林地、都市農地などの自然緑地保全のための相続対策、また民有の保存樹林を公有地化するなどについて国や東京都及び他市との連携を深め、今ある緑を残し、新たな緑の創出に努めてまいりたいと存じております。

以上で小平市のメッセージを終わりにさせていただきます。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、星野国分寺市長、お願いいたします。

星野国分寺市長

皆さん、こんにちは。国分寺市長の星野でございます。本日は、小金井市市制施行50周年を記念しての小金井サミット、お招きをいただきましてまことにありがとうございます。また、このような企画をなされました皆様方に心から感謝を申し上げたいと思います。

私ども国分寺市では、11月１日、２日、３日を中心に全国国分寺サミットというのを開催いたしました。奈良時代、西暦741年に全国に国分寺をつくって仏教の力で国をまとめていこうという御触れが出たわけでございますが、以来十数年たって、758年ごろ、武蔵国の国分寺が完成したと言われております。ということは、ことしは武蔵国分寺建立1,250周年という記念すべき年になるわけでございます。

この武蔵国の国分寺は全国でも最大の規模を誇っていたと言われております。歴史の話をし出すと長くなりますので、省略いたしますが、どうして私どものまちに武蔵国の国分寺がつくられたのかということについては、できるだけ国府に近い――国府は今の府中市さんにあったわけでございますが、国府に近いいい場所につくりなさいということだったわけですね。いい場所という条件はいろいろあると思いますが、当時においては丘陵を北にしょって清らかな水が湧き出るというところが大きな条件ではなかったかなと思います。.

ご存じ、全国名水百選に指定されておりますお鷹の道・真姿の池湧水群というのが国分寺にはございます。また、日立中央研究所から湧き出る水、さらには都立殿ヶ谷戸庭園から湧き出る水などがこちらのほうに流れてきていると思います。

小金井の方々に忘れていただきたくないのが、ＪＲ武蔵野線のトンネルから湧き出る地下水であります。かつて私ども国分寺市は、ＪＲからその湧水が下水道に引き入れられていたために、毎年２億円程度の下水道料金をいただいておりました。ところが、地下水を下水に捨ててしまうのはもっ

たいないということで、当時涸れていた姿見の池という池に導いて、そして野川に落とそうという計画を立てました。つまり、国分寺からこの小金井市に流れてきている水は、私どもがＪＲからいただく予定だった２億円の下水道料金をいわば犠牲にいたしまして流させていただいている水でございまして、ぜひ小金井の皆さんには大事にしていただきたいなと思っているわけでございます。

ところが、稲葉市長さんはなかなか欲の深い方でございまして、いろいろ注文をなされます。どういうことをおっしゃるかというと、星野さん、もうちょっと２億円の水を調節して流してくださいよ、多いときはやたら来るけれども、来ないときは全く来ないという――ただ、自然任せでございますので、ここのところはやむを得ないかなと思っているわけでございますが、先ほど申し上げたお鷹の道・真姿の池湧水群の水量は、かつては１日1,000トンも湧き出ていたんです。ところが、今のお話で申し上げたように、出るときはたくさん出るけれども、しかし、冬場の渇水期には大分水量が減ってしまうというようなことがあって、多くはもちろん地域の開発が進んできたということが原因であります。

姿見の池（国分寺市）

私どもも小金井市さんに負けないように――ずっと負けっ放しなんですが、雨水浸透ます事業をやっておりますけれども、あわせて大事なことは、私は都市農業をきちっと保全していくということではないかと思っています。国分寺市の畑の面積というのは、26市の中で清瀬市さんに次いで市域の中に占める割合が高い市であります。国分寺の畑に降った雨が地下に浸みて、国分寺で湧いたり小金井で湧いたり三鷹市さんで湧いたりしているのではないかなと思っています。

同じことが、国分寺で湧く水をもっとふやすためには、私どもの地下水の上流域に当たる立川市さんとか小平市さん、あるいは武蔵村山市さんといったところで農業を保護していただく、雑木林の保全を図っていただくというようなことが必要なことではないかなと思っています。

先般、練馬の区長さんのご提唱で、都市農業を守っていこうという自治体の協議会が設立されました。多くの市の方々が加盟されているわけでございますが、こういった連携をさらに強めていくということが大事なことだと思っています。

それから、国分寺崖線フォーラムがあります。古い昔の多摩川がつくった国分寺から発する崖線でありますけれども、それが国分寺で湧き、小金井の貫井で湧き、三鷹の大沢で湧き、世田谷の等々力で湧くというように湧水を生むもとになっているわけですが、その国分寺崖線に面する自治体が連携をして国分寺崖線フォーラムということを行っています。世田谷区さんの提唱で始まりました。去年、第２回目を国分寺市でやらせていただきました。ことしは小金

井市さんで３回目をやっていただけるということでございますので、期待しているところであります。

そのほかに、そういった広域的な連携のほかに、市で努力していくべきこととして、やはり湧水や地下水を守っていくための条例をきちっと整備していく必要があるのではないかということで、現在準備しているところであります。この点については、小金井市さんは先進市でございますので、ぜひ見習って学ばせていただいて、いい条例をつくっていきたいと思っています。

これからも皆さんと一緒に緑のあるまち、清らかな水の湧くまちをつくっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

続きまして、坂口西東京市長、お願いいたします。

坂口西東京市長　西東京市長の坂口光治でございます。きょうは小金井市市制施行50周年の記念事業ということで、雨のご縁でといいますか、水のご縁でこのようなすばらしい会を持っていただきましたこと、まずもって感謝を申し上げたいと思います。

最後のほうに参りますと、発言もだんだん難しくなってまいりまして、少し奇抜なアイデアを出しませんとみんな聞き流されてしまうということで、ちょっと違った切り口からお話をし、つなげてみたいと思うわけでございます。西東京市は合併して今８年目を迎えているまちでございます。旧田無、旧保谷が合併をいたしまして、都市型対等合併と言いますが、合併した当初は18万人の人口でございましたが、今は19万3,500人を数える、多摩地域、400万人の人口が実はございまして、四国全県とほぼ同じなのですね。その中にありまして、人口規模で言うと５番目のまちになりました。

ただ、歴史をたどりますと、まさに水なんですね。西東京市内には早稲田大学のグラウンドの隣地に4,000年前の縄文中期の遺跡がございます。縄文下野谷遺跡と言いますけれども、これもよくよく歴史を学んでいきますと、石神井川の水に恵まれた地域なんです。水があるということは、私どもの命の水でございますから生活ができる。それだけではなくて、獣なども集まってくるということで、落とし穴ですとかそういったものが発見されるんですね。ですから、言うまでもないことなんですが、西東京市の歴史も、石神井川または水の恩恵によって連綿と培われてきたものである。

今の田無も、実は青梅街道の開通に伴いましてできた約400年の歴史を持つまちなんですが、その昔は鎌倉街道に沿って集落ができまして、そして現在の位置に移されたというものでございます。玉川上水、そして田無用水の恩恵でまちが発展してきた、そのように見ることができます。

西東京には実は若干名物がございまして、195メートルのスカイタワー西東京があるのですが、そのすぐ麓に六都科学館という施設がございます。きょうは学長先生もお見えであるわけでございますが、学芸大学の先生方ですとか学生さんにも大変協力をしていただいておりまして、子どもた

スカイタワー西東京

ちのみならず、大人の生涯学習等にも寄与している施設でございます。

そのコンセプトは、きょうのテーマとも重なってくると思うんですが、１つは生命の科学、生活の科学、地域の科学、それから壮大になっていますが、地球の科学、宇宙の科学、これがコンセプトで、いろんな展示ですとかテーマごとの実験、または学習が行われております。そんなことを念頭に置きながらお話をいたしますと、まさにグローバルな視点といいますか、地球規模で考えて、地域から取り組みをしていくということが大変重要なのではないかと私は考えます。

先ほどお話のございましたように、21世紀といいますのは、生命と環境の世紀と言われております。もっと見ていきますと、きょうはこんな写真も持ってまいりましたけれども、これはアポロで撮った写真でございます。今は「かぐや」の映像が大変幽玄の地球を映し出されておりますけれども、まさに水の惑星なんですね。私どもの命そのものがこの水から育まれているということをもう一度きちんと捉えなおすことが重要な世紀に来ているのではないかと思います。

地球の歴史は約40数億年と言われておりますけれども、生命の歴史は38億年ぐらいでございます。その進化の中でいろんな動物、植物が生まれて、奇跡的に私どものような生命体、人間が存在するということから言いましても、水ですとか雨というものをやはり大切にしていく必要があるのではないか、そのように考えております。

以前、青ヶ島に２回ほど行くことがございました。つい先ごろの統計ですと214人の方が住んでいるんですけれども、約１ヘクタールに張られました雨水を集める施設で214人の方が生活をしております。ということは、年間を通しまして、私どもの足元には1,500ミリぐらいでしょうか、雨が降るわけでございますが、それを有効に使えば、私どもの生活は十分できてしまうということになります。

先ほど19万3,500人と言いましたけれども、16平方キロのところにそれだけの人が住んでおります。武蔵野市に次いで人口密度は高いのですが、１平方キロに１万2,500人ぐらいの方が住んでいるのですが、それでも雨水をうまく利用すれば、私どもの生活はできるということをこの青ヶ島モデルは示しているのではないか、そんなふうに考えているところでございます。それぐらい水というのは、また雨水というものは大変重要であるということです。

そのような大切な雨水を直接使う、貯留をして使う、または地下に浸透させるなど

色々な方法があるわけでございますけれども、行政、市民、企業、大学等が連携をして協働をしてその有効利用を考えていくということが大変重要ではないか、そのように考え、我が市も一生懸命取り組みをさせていただいているところでございます。

それから、先ほど玉川上水の話がございました。一度は水が涸れてしまったんですね。小平監視所から下のほうは流れなくなったんですが、今、実は３次処理と言いますが、多摩川上流処理場という昭島の処理場で高度処理をいたしました、その水を復活させて小平監視所から下流へ流しているんですね。こういうリサイクルといいますか、これも大変重要なのではないか。玉川上水に隣接した自治体が多いというのも、この８市の特徴ではないかと思います。このようなことも大切にしていきたい。そのためにも地域連携といいますか、行政間の連携が大変必要だと考えております。

また先般、都市農地保全推進自治体協議会が発足いたしました。東京都全体では平成４年から平成17年、これは生産緑地制度がスタートした年からということになりますが、13年間で何と都市農地が7,446ヘクタールから5,114ヘクタールに、約2,300ヘクタール、31％も減少しております。都市の緑を守るということは言うまでもございませんけれども、地産地消、さらには緑そのものの価値もありますし、今まで出てまいりました雨水の涵養ということもございます。または、ヒートアイランド現象を防止する。さまざまな効果があるわけでございますが、このような農地の減少にどのように歯止めをかけて、緑豊かな魅力的な地域をつくっていくかということは、私どもに課せられた大変重要な課題である。これらにつきましても、やはり自治体間の連携が大変重要である。今回は34自治体が集まりまして、それぞれの会議を発足させまして、東京では国に対して要望書を提出させていただいたところでございます。

まさに、雨降って地固まるという言葉もございますので、水問題、雨の問題で８市が連携して取り組みますと大変な発信力を持つのではないか、そのように考えております。

以上をもちまして私の発言とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

司　会　ありがとうございました。

それでは最後に、稲葉小金井市長、お願いいたします。

稲葉小金井市長　皆さん、こんにちは。地元市長の稲葉でございます。今日は「雨を活かすまちづくり５０年の継承」ということで、近隣市の７市長にご出席をいただいております。私も今日午前中で６カ所の仕事をこなしてきて、ここに７市長さんが一堂に集まっていただくのを大変申し訳なく思っております。１人か２人は代理の方が来られるかと思っていたら、全市長が来られたことに大変恐縮いたしております。今日の８市市長サミット宣言が、これからの多摩地域で活かされていくことを期待いたしたいと思います。

さて、今年が市制施行50周年の小金井市ですが、この50年間で私たちは地域、日本、そして地球の環境に大きな負荷を与えてき

て、これからの50年も今までと同じような生活をしていくと、人類は持たないのではないかという思いでございます。ここで、私たちは生活様式を変えていくことも考えていかなければならないと思っております。

私が小金井市に越してきたのは昭和48年でして、その当時の野川はまさにどぶ川のようでした。生活雑排水が流れ込み、小さな落込みは石鹸の泡が飛び散っているような状況でした。それが、市民の方々の野川浄化への強い思い、そして公共下水道の普及で野川は回復に向かったわけです。これは、自然環境浄化の運動をされてきた方々の大きな力の結集だと思っております。

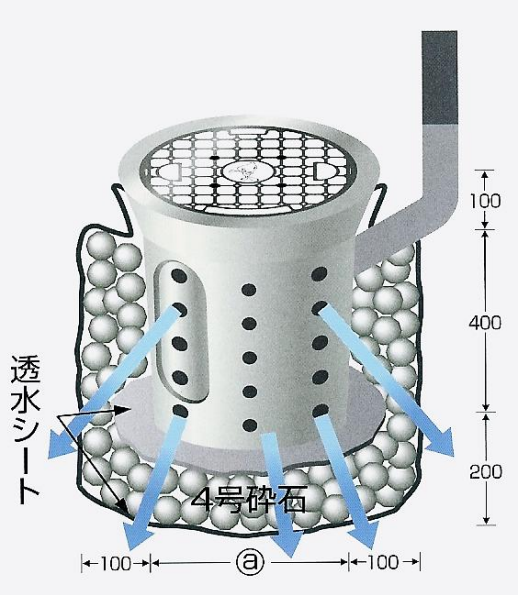
ただ、野川の流量は昔に比べて非常に減ってしまっているということはあります。しかし、それも雨水を浸透させることでかなり復活してきたのかなと思っております。先ほど星野国分寺市長がお話しの毎年２億円の下水道収入があったＪＲの湧水を、工事費かけて姿見の池に流しているのもかなり役に立っているのではと思っており、野川への安定的供給を改めてお願い申し上げておきたいと思っております。

今、野川は本当にいいぐあいに流れていますが、今年２月、３月に小金井市内ではどうかというと、渇水状態になり砂利道のようなんですね。本当に虚しい思いをしています。それが、水源の国分寺市を見に行くとそんなに量は多くなくても流れているのですね。

それで、小金井市を越えて三鷹市に入りますと、また三鷹市で流れているのですね。もしかして小金井市の雨水浸透ますの地下水が三鷹市に（何か清原三鷹市長がそうだというふうにおっしゃっておられますけれども）流れているのかなと思っております。

小金井市役所の中庭に雨水浸透ますのモデルがありますが、皆さんに一度見ていただきたいと思います。雨水貯留タンクがあって、その水を流すと、雨水がどのぐらい浸透していくか見られます。これは見たら驚きます。えっ、こんなに浸透するのと思います。ですから、今小金井市で５万基を超える浸透ますが設置されていますが、この浸透量は膨大な量になると思っています。東京都にお願いしています水再生センターの汚水処理料の雨水分を少し減らしていただきたいなと思ったりしています。まちはアスファルトとコンクリートで覆われ、雨水がほとんどそのまま公共下水道に流れ込んでいます。この雨水をできるだけ地下に涵養することが今求められているのではないでしょうか。

小金井市は武蔵小金井駅南口の再開発、東小金井駅北口の区画整理の工事が始まっ



雨水浸透ます

たところですが、降った雨は浸透管等を使って地下に浸透させるという方法を考えております。また、道路部分においても浸透舗装、浸透ますにより降った雨、流れる雨を地下に浸透させようと考えて、できるだけ雨水を有効に活用していくための努力をしているところであります。

今日は８市サミット宣言がされたわけで、これから私たちこの北多摩に位置する８市が力を合わせて先駆的な事業が展開できればいいなと思っております。市民の方々にもいろいろご意見をいただきながら、この自然環境を守り次世代に引き継ぐためにも頑張って参りたいと思っております。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

司　会　市長の皆様、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして第１部８市市長サミットを終了させていただきます。

皆様のご協力により、無事進行をさせていただき、ありがとうございました。

この後、雨と仲良し・アイデアコンペ表彰式、宣言を受け、小金井市では今後どのような取り組みを行ったらよいのか皆様と話し合うシンポジウムがございます。お時間の許す限り、皆様方のご列席をお願いいたします。

それでは、各市長の皆様とご来賓の方々に退席していただきます。どうぞ皆様、大きな拍手をお願いいたします。

（拍　手）

※カットに使用している写真については、オリジナルのほか各市のホームページより引用しております。